

学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.



第142号

学校の役割

その 120

宮沢賢治の「なめとこ山の熊」の一節、「けれどもこないやなずるいやつらは世界がだんだん進歩するとひとりで消えてなくなって行く。僕はしばらくの間でもあんな立派な小十郎が二度とつらも見たくないようないやなやつにうまくやられることを書いたのが実にしゃくにさわってたまらない」。熊撃ちの小十郎は町で商いをする旦那のところに行って熊の毛皮を買ってもらいます。その時の旦那の狡猾な言葉と態度に語り手の「僕」は大変憤慨しています。小十郎も分かっているのにそうするより仕方のないことなのです。「こないやなずるいやつらは世界がだんだん進歩すると一人で消えてなくなって行く」と「僕」は自分に言い聞かせています。

「なめとこ山の熊」は賢治が亡くなった1年後の1934年に発表されています。それから90年近くが経っています。世界はだんだん進歩しているのでしょうか。その間に何人の小十郎がこの世を去って行ったのでしょうか。小十郎は熊に命を奪われます。しかし、小十郎の亡骸を「黒い大きなものがたくさん環になって集まって各々黒い影を置き回々^{ふいふい}教徒の祈る時のようにじっと雪にひれふしたまま^{しん}参の星が天の真ん中に来てももつと西に傾いてもじっと化石したように動かなかつた」そうです。命を奪われ奪われる小十郎と熊の関係ですが、きっと熊たちは小十郎の死とともに黒い大きなものに変貌したのでしょうか。小十郎を送る夜のしじまに融けいるような沈黙のレクイエムが聞こえてくるようです。きっと「僕」の心もいつまでもそこに跪いているのでしょうか。

森友学園問題で決裁文書の改竄に手を貸してしまった大蔵官僚が職務命令と己が良心の狭間で自ら命を絶つ道を選びました。残された妻は訴訟を起こしています。改竄を指示した「いやなずるいやつらは世界がだんだん進歩するとひとりで消えてなくなっ

て行く」のでしょうか。「世界がだんだん進歩する」ために必要、かつ十分な状況を維持し続けるにはどうしたらいいのでしょうか。そもそも「僕」の言う進歩とはどういうことでしょうか。

この物語は「僕」のしゃくにさわってたまらない思いから生まれたものだとも思います。消えてなくなればいいやつらがいるから生まれた物語だとも言えると思います。進歩とはこのからくりの中に垣間見えるような気がします。進歩へのからくり階段がいつも人間の前には置かれている、そう思います。

ミャンマー国軍の軍事クーデターと市民に対する暴力に抗議し、その暴力で命を奪われた多数の市民を追悼する集会在沖縄在住のミャンマー人の方々の主催で今までに3回開かれています。その主催者の集まりの日本人の世話人としてお手伝いをさせてもらっています。沖縄県庁前の県民広場で2月に開かれた2度目の集会では主催者が作成した共同声明が集会で採択されました。5項目の内の5番目は僕の提案を皆さんが受け入れてくれたものでした。

集会ではミャンマーのデモの最新の映像が流されました。日本のマスコミなどでは紹介されていないものが多いです。デモに参加している市民の熱気が伝わってきます。若者が多いです。私服の兵士(警官)が無防備の参加者を追いかけて何人かで挟み撃ちにし、その内の1人が鉄棒で頭部を力任せに殴打しました。横たわって動かなくなった市民をさらに別の兵士(警官)が腹部を2度も鉄棒で殴打する映像も流されました。映像の中からも会場からも悲鳴が上がります。暴力に対する怒りと憎悪が沸き上がります。

協同声明の5番目は「ミャンマー国軍の兵士などに対して、武器を捨て、デモの隊列に加わる呼掛け“DUMP! & JOIN!!”をミャンマー、沖縄、日本をはじめ、世界中の市民が様々な方法で発信すること」でした。無力感と隣り合わせの呼びかけです。(ほ)

がじゅまる しんかめちゃー



(生徒・学生のコーナーです)

昨年は会場への人数制限とオンラインでの「入学を祝う会」で新入生を迎えました。いまだとどまらぬコロナ禍の中、今年2021年度の「入学を祝う会」は生徒達と感染拡大防止を考えながら、馬天の浜の目の前に学び舎を移した校舎でとり行われました。今年は20周年記念ミュージカルを午後から控えていたので、生徒達は朝から緊張の面持ちで「入学を祝う会」、「ミュージカル」の準備と大忙しでした。

「入学を祝う会」では新入生は初等部と中等部7名、雙星舎高等部6名、夜間中学校4名の計17名を迎えてのスタートとなりました。当日の新入生を迎える言葉は中等部3年生3人組。リレー方式で自分達の思いを言葉にしました。生徒達のことばを紹介いたします。

～ 「入学を祝う会」より 新入生を迎える言葉 ～

「迎える言葉 (中等部3人組)」

中等部 市川瑠禾 大湾真美 盛口海

まず初めに新入生の皆さん、入学おめでとうー！これから一人ずつ自分にとっての珊瑚舎を語っていきます。

(かい) 珊瑚舎は自分の人生を作るきっかけを見つけられるところだと思っています。ここは、普段の自分ならやろうと思ったり、興味を持ったりしないような事がたびたび体験できます。

ずいぶん前の話ですが、2019年に沖縄で県民

投票があった時、有権者ではない17歳以下の人も声を発信しようと、街角で呼びかけてシールで投票を行ったりもしました。また、教科書には出てこないような授業の内容や自分たちで作る行事や学校も、全てがきっかけとなって、未来のふとした時に思い出しその時の自分を作っていくと思います。

でもきっかけを見つけられても、それを体験しようとしなかったら、自分にとって何の蓄えにもならないです。自分にとっての珊瑚舎はきっかけを蓄えることができ、それを引き出し自分の言葉で自分を作っていく事をサポートしてくれるところです。

新入生の皆さんも在校生の皆も、それぞれがそれぞれをサポートしあい、一緒にここで互いに自分を作っていければいいなと思っています。

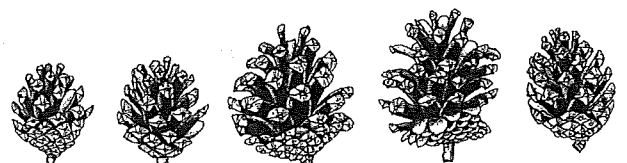
(まみ) 私にとっての珊瑚舎は何となく居心地のいい場所です。いつでも居心地がいいというわけではなく、みんなで話し合い居心地のいい場所を作っていきます。

自由な学校ではあるけど、自由の意味を履き違えずに学校生活を楽しみます。

変わった授業や行事があり、ほかの場所じゃできない事ができ、学べると思います。

(るか) 私にとっての珊瑚舎は、自分と意見の違う人とたくさん話をして、自分の意見を見つけることができる。Free スクールだけど、時間割やカリキュラムがちゃんとあって、普通の学校じゃ学べない楽しい授業もたくさん勉強することができるし、でも、体育祭や、文化祭がないぶん、6月にはハーリーもあって、沖縄の文化にふれながら、楽しく体も動かすことが出来て、他の学校では学べないことがたくさん学べる場所だと思います。

それでは、慣れるまで多少の時間はかかるかもしれませんが、これからよろしく！



ふくぎのふぁー



(講師・スタッフのコーナーです)

高等部英語／朝から英会話担当 比嘉 有加
 ハイターイ！結婚を機に沖縄に住んで6年目になります。埼玉で育ちましたが人生の半分は東京、海外、海の上で過ごしました。日本の大学を卒業してカナダに留学した後、NGO ピースボートが企画する地球一周の船旅で洋上語学教室のスタッフとして働き、地球を12周しました。世界中から集まった個性豊かな英語やスペイン語の先生と働けたこと、人生観が変わる体験をする日本人のお客さんと一緒に旅できたこと、南極大陸、グリーンランド、ガラパゴス諸島、ヨルダン、エリトリアなど珍しい場所で現地の暮らしや文化を体験したり、彼らの抱える諸問題を自らの目で見て、グローバルな視野を養えたことは一生の宝となりました。

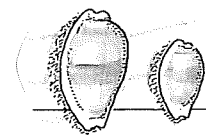
旅やあらゆる国際経験は視野を拡大します。日常のどんな小さなことでも大きな視野に立てれば、柔軟な創造性をもって行動し対応することができます。ピースボート退職後、海外の方に日本を紹介するツアーを添乗した時もこの視点が役立ちました。

私は中学生の時から異文化を学び、世界の人々と交流したいという夢がありました。好奇心や夢が私に英語の勉強を続けさせました。奨学金でカナダに留学できたのも、やはり夢が原動力でした。これは多少の困難も不可能も乗り越えられる力です。

私は英語の授業を通して「英語」という道具の使い方を教えていますが、その道具によって皆さんが大きな視野に立って無限の夢を描き、実現する助けになればと願っています。『思い描く』という想像力が実現に先立ちます。創造的に想像するのです！

珊瑚舎で培った創造性を持って夢を描いてください。どんなに不可能に思われる環境であっても夢があれば着実に一步を踏み出すことはできます。遠回りでも大丈夫。できるときにできることをする。確かな見極めと判断をし、チャンスは逃さない。自分の可能性を信じる。毎日の行動の中に夢への一步一步があります。慣れ親しんだ環境(習慣)から一步外に出る勇気で世界が無限に広がり、自分の可能性も無限大になります。

珊瑚舎スコーレに出会った皆さんは恵まれた環境の中で多くの面白いことや新しいことを学び、体験し、創造しています。日々の遊びや学びに隠された多くのチャンスを見逃さず、素晴らしい仲間と共に夢への一步一步を歩んでください。仲間の一員として珊瑚舎に迎えられたことに感謝し、無限大の未来を創っていく皆さんの夢に少しでも寄り添えたらこの上ない喜びです。それが私の夢です。



開校20周年記念ミュージカルを終えて

4月4日午後2時開演。生徒達のあらすじが、物語が動きだしました。引越しをしながらの練習日程で上演までのみちのりも長かったと思います。さまざまな感情がうずまき、そこから何が見えて来たのか。ミュージカル上演後の感想を生徒達に書いてもらいました。何名か紹介します。

「ミュージカルを終えて」 中等部 真栄城 玄麒
 ミュージカルでは、伴(組踊の王族の伴役)の空手(宴の場面)の練習を覚えるのが大変でした。だけど、覚えたら少し簡単でした。また、最初はミュージカルなんて簡単だと思っていたけど、練習していくうちに、たくさんの物語があり、ミュージカルはとても難しいと気づきました。

だけど、ミュージカルをやりとげた後の達成感がすごかったです。



「ミュージカルを見て」 高等部 橋本 千鶴

私は、ミュージカルを見て、星野さんが代表の挨拶の時に話された「学びは人の内側を輝かせる」という言葉が体現されているように思いました。

まだ入学したばかりなので何を学ぶのかよく分かっていませんが、演じているみなさんが今まで学んでこられた色々なものが放出されて、みんなの心が一つになり、内側から光があふれだしていたのを感じました。

その輝きの中から頑張りや、苦悩が見えかくれしていて、美しかったです。

ミュージカルの終わりに泣いている人もいて、みんなで一丸となって何かをやり遂げるということは改めて、素晴らしいと思えました。

私も演じていた人達のように心を動かしてみたいです。



「6カ月の記憶とこれから」 中等部 盛口 海

去年の9月ぐらいにミュージカルの台本を貰って、役選びの時に物語の中心っぽい土の4人のうちの誰かをやりたいなー、でもニービは「柿の種！」とか言ってるから自分にはできなさそうと思ってジャーガルを選んだのを覚えている。

それから自分の役がジャーガルに決まって、セリフは長いけど頑張れば覚えられるし、声が大きい事も自覚していたから大丈夫だろうな、と気軽に思っていたのかもしれない。だけど3月に入って本格的に練習を始めると、自分の声は通るけど録音とか聞

くと死んだ様に感情がこもってない事に気付かされたり、表情も真顔になってしまう所を気を付けたりと本当に大変な所が多かった。

また、引越と同時に練習を行ったので、放課後感情入れる自己練しよー、と言われても、引越で疲れた等を理由にして逃げていた所も今思えば何回かあったかもしれない。もちろん練習中はよったま（アクト&ドラマ講師）にちーちゃん（中高体育講座講師）、あゆみっち（初等部体の時間講師）、えんとも（事務局スタッフ）にまさお（シンカクグ講師）…毎日誰かに見てもらっていたから日に日に上手くはなっている様に感じた。でも楽しく感じた思い出は少なく、朝から人が集まらない、集まっても毎日誰か1人は休んでるのが当たり前になっている、疲れて関係がギクシャクしている、自分の出番以外は寝てたり、スマホをいじっていたりする…等、はるかに嫌な思い出の方が多かった。

それでも絶対に本番はやってくる。二週間前辺りから、もうこれまでの約半年分の練習を人に見せれるのは4月4日一日しかない、と思い始め、自己練から時々逃げてたのをやめたと思う。

それでいよいよ迎えた本番の日、皆考えていた事は違うと思うし、個人的には最初の水切りのシーン、自分は笑いをとるのが苦手っていうか嫌なのがちょっと残ってて上手くできなかったし、「今を歌う」の最後、土が出て行って礼をする所も失敗してしまった。しかしそれでも“最後”を楽しもうと皆が揃って、ミュージカルが成功できたんだと感じた。

終わった後には疲れよりも虚脱感があって、本番の次の日の朝起きてすぐに「今日も練習かあ〜」って思ってしまった程に習慣になってしまっていた。自分が思っていた以上にミュージカルと一体になっていた。

ほっしーは津波古の公民館でもう一回ミュージカルをやるかも、と言っていた。正直あのレベルをもう一度やるのは無理かもしれないと思っている。でも後から聞いた話、本番の後お客さんの中にも泣いてた人がいたそう。多分、「風とう土（かじとう

んちゃ)」の物語で伝えたい事は伝わっていたんだと感じた。だったらもっと多くの人に伝わって欲しいから、自分はもう一度ジャーガルになる。



「ミュージカルの感想」 初等部 須田 あかり

ミュージカルを見ていてすごいと思いました。とくにすごいと思った場面は、王族の場面です。なんやかという、王様のうちな一口がむずかしそうだったけど、つかえずにちゃんとしゃべっていたのですすごいと思いました。あと、空手がすごいと思いました。手の動きが早くて、かっこよかったです。

もう一つすごいと思ったことがあります。歌です。せいと全員が声をあわせて、歌った曲は全部すごかったです。1人1人の声が重なっていたので、とてもきれいに聞こえました。1人で歌うと、自分の声しか相手（お客さん）にとどかないかもしれないけど、みんなと歌うと、相手に自分だけの声だけじゃなくって、色々な人の声がとどくから、がんばって歌った気持ちが、歌を歌った全員分、相手（お客さん）にとどいたと思います。もちろん私にも、とどきました。とてもすごかったです。

さいご、リンちゃんのお母さんに「がんばって練習してたんだよ。」って教えてもらいました。それで、全員がんばったんだなあ。と思いました。

私は、このミュージカルを「やってみたい！」と思いました。ミュージカルをやってみたいと思ったのは、これが初めてでした。また、やるきかいがあったらやりたいです。珊瑚舎スコールのミュージカルはとてもよくて、すてきでした。

卒業制作 自画像より



*2020年度「卒業を祝う会」後、3日間の山がんなまり活動最終日に卒業生は「畑の卒業式」で自画像を読みます。そうして在校生達と卒業を認め合い

ます。ミュージカル上演の関係により今年は2月のうりづん庭でした。前号では「卒業のことば」を紹介しました。今号では2月下旬に卒業した生徒の文章を紹介します。

<高等部>

「自画像」

城間 柚花

きつと、大切な何かを失くしたのは、些細なきっかけ。

変わりたくないからと変わらずに、変わりたいと願う。矛盾だらけの日々から、抜け出せずにいるだけ。何かを変えようにも、変えたい気持ちも力も、足りなさすぎて。それだけで周りに流されて消える意思。

少しは人として成長できたのだろうか。幾ら自問自答しても答えは出なくて、ずっとその場に留まっていたいと思ってしまう。

前を向いていく。と決めた決意は簡単に崩れる。数々の挫折が自信を曇らせる。喩え何度崩れても、挫けても、何回だって前を向いていく。何度倒されようが、何回だって起き上がる。ブレない決意は、信念はそれだけかもしれない。

全部、「大丈夫」って思い込んで、自分から、周りから目を背けて、大切な何かを手離したくないのに、手から零れ落ちている。

名前も分からない簡素な道を歩いて、輝かしい未来を夢見ては、辛すぎる現実で脅える。

諦めて泣く道すがらにあったのは、本当にやりたいこと。

どうしたらいいのか解らずに、ただ迷い、戸惑って、嘆いて、自分なりの答えを探す。

答えが見つかるのはずっと先で、死にそうになっても解らない。

何を学び、なにを得て自分とするか。

何を問い、何を答えとして自問自答とするか。

答えのない問いの、答えをずっと探している。

結局、根本的な自分は何も、変わっていないのかもしれない。

結局、根本的な自分はこれからも、変わらないの
かもしれない。

結局、変わろうとしない自分を、ただ嫌うだけな
のかもしれない。

結局、自分の現状をわかっていても、何度だって
繰り返すのだろう。

変わらない。変わりたい。変わらない。変われな
い。

変わらない。に埋もれた変わりたい。は、人混み
の中で親とはぐれた幼子の様。

何度も同じことを繰り返す様はまるで、お菓子を
ねだり泣き喚く幼子の様。

それでもいい。幼子の様に泣いて喚いて、同じ事
を何度繰り返そうが、常に笑って前に進め、自分。

琉球ミュージカル「風とう土」 再演のお知らせ

開校 20 周年記念・琉球ミュージカル「風とう土」、
新入生を交えて再演する事になりました。コロナが
落ち着く事を願いつつ。

日時：2021年7月31日(土)

午後2時開演(午後1時半開場)

場所：ムーンテラス東崎音楽堂

(西原キラキラビーチ向かい)

入場：無料 *事前予約が必要です。

申し込み&問い合わせ

TEL:098(975)7781

FAX:098(975)7783

定員になり次第、締め切らせていただきます。

お 知 ら せ

あそびはまなび まなびはあそび

●●●珊瑚舎 体験キッズスコーレ●●●

2022年4月、【キッズスコーレ】が珊瑚舎スコーレの校外施設「山がんまり」に間近い南城市佐敷津波古1487番地に開設する予定です。それに向けて、今年6月から週3日の「体験キッズスコーレ」を始めます。

体験募集要項

- 募集人数：あけづ(とんぼ)組 定員5名
- 募集対象：あけづ組 2021年4月2日現在、満6歳から8歳の児童
- 募集期間：6月1日～ 先着で、定員になり次第募集を締め切ります。
- 応募条件：こどもがんまり(珊瑚舎スコーレの校外施設を使った活動)を体験していること。但し、止むを得ない事情のある場合はその限りではありません。

★ ★事務局便り ★ ★

★引っ越しをして二カ月経ちました。ウッドデッキを作り、今は台風に備えて雨戸を固定する準備をしています。秘密の会議室の床はりもこれからです。生徒達と一緒に少しずつ整えていく、それも楽しみです。ご連絡の際は下記の住所、電話をお願いします。

★ ★ ★

●今年度(4月1日～5月31日)寄付・カンパを頂いた方々
石田みどり 鹿糠文子 坂本和子 岡村健手塚賢至 照本祥敬 市野寿子
当山幸江 森口美千恵 三浦幸子 山田道子 助川寿美子 式部恵子 丹羽雅代 與儀勝子 与那覇晴海 湯本貴和 上田秀一 大城喜春 北上田登久子 盛口佳子 真津昭夫 家門収一 長嶺由紀子 橋川由美子 小渡律子 幸地江美子 城間おん あずき松茂 良米名城 悦子所扶久代 石野裕子 矢崎智章 尾崎せき 松田晴代 萩原真美 城間栄順 村上呂理 伊波雅子 仲里博彦 下地孝野 村佳雄 西山哲平 智海竹内 新大城博長 美枝子 野村佳雄 横山真由美 高柳英子 坂本新一 朗中川彬子 泉恵子 仲村宮子 仲宗根 恵弥利 武義和 富澤由子 安田圭太郎 石川信江 砂川明利 木名瀬 武男 照屋まち子 早石周平 沢岷じゅん子 野村佳雄 小野寺歩 大城孝太郎

発行者：珊瑚舎スコーレ
 事務局 遠藤知子
 住所：〒901-1414 南城市佐敷津波古 509-4
 Tel：098-975-7781 Fax：098-975-7783
 Mail：info@sangosya.com
 URL：https://sangosya.com

